

ULT通信

あると

2015.6.15号 / vol.56 発行 / ULT 図書館司書

6月は、ULTアニバーサリー月間です！

2008年6月にULT開館、2009年6月に

ULT百選・読書マラソンがスタート！

6月はULTにとって記念の月なのです◎



自転車の乗り方講習・AEDの使い方講習・いじめ防止・・・

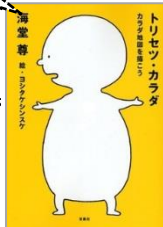
最近 学校で命を大切にしなさいって 何度も何度も何度も言われるけど

キモキモ「命」ってなに？ どう生きればいいのか？



本の中に ヒントや答えがあるかもしれません。

『トリセツ・カラダ』(海堂尊・ヨシタケシンスケ) より **カラダが教えてくれるかも**
君のカラダは精密機械だ。同じものを機械で作れば、予算は100億円でも足りない。そう、君たちは100億円の価値のある少年・少女なんだ。(…)君自身を知れば、簡単に絶望しなくなる。だって、君が悲しんでいる時も、苦しんでいるときも、君のカラダは黙々と君を支えるために働き続けているんだから。(…)君がよりよく生きるために、カラダは黙って頑張ってくれるんだと、僕は思う。

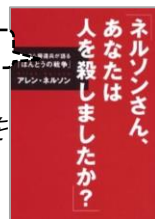


巨匠が教えてくれるかも

『風の谷のナウシカ』(宮崎駿) より
どんなにみじめな生命であっても生命はそれ自体の力によって生きています
この星では生命それ自体が奇蹟なのです

ベトナム戦争帰還兵が教えてくれるかも

『ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？』(アレン・ネルソン) より
海兵隊員は死をおそれぬことを、正確に言えば死というものを考えないことを教え込まれ、獣のような人間へと徹底的に改造されるのです。



小説家が教えてくれるかも 『みんなのなやみ』(重松清) より

(…)誰かを殺したいほど憎んでいなければ、また、誰かが死んでも構わないと思うくらいに、ひとの命を軽んじたりしていなければ、(…)誰からも殺されたり、誰のことも殺したりはしない。

『りかさん』(梨木香歩) より **物語の主人公が教えてくれるかも**

ようこには、死ぬっていうことがよく分からない。分からないから、ブラックホールが遠くから近づいてくるような恐怖がある。



お年寄りが教えてくれるかも

『おばあちゃんが、ぼけた。』巻末寄稿(谷川俊太郎) より
母のぼけをきっかけに、ぼくはこの世には「意味」で割り切れない「存在」があるし、役に立つ立たないということだけで人を判断は出来ない、と思うようになりました。(…)ぼけの可笑しさ、不思議さ、怖さ、美しさを通して、私たちは人間といういのちの限りない深みに触れるのです。



イスラム革命体験者が教えてくれるかも

『ペルセポリス』(マルジャン・サトラピ) より
この先おまえはたくさんのバカに出会うだろう。そいつらに傷つけられたら、自分にこう言うんだ。こんなことをするのは愚かな奴だからだって。そうすれば仕返しなんかしないですむ。恨みや復習ほど最悪なことはないんだから…
いつも毅然として、自分に公明正大でいるんだよ



悩みや疑問はひとそれぞれで、解決方法や答えもひとの数だけあります。自分なりの答えを探しながら生きていくために、本はよい相棒になってくれます。自分に向けて書かれたかのように思える文章や、生きる指針になる言葉に出会う。

そんな読書体験をしてほしいと思い、ULT百選を作りました。

ここに紹介した本は、すべてULT百選の本です。

新着案内

5月の新着は108点です。
一部抜粋で紹介します。

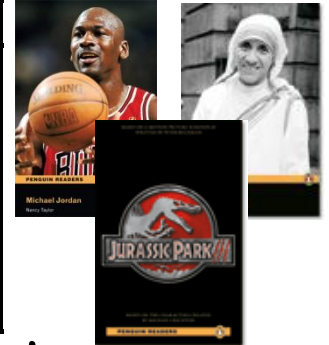


↓「新しい台湾の文学」シリーズ：UGの姉妹校がある台湾の文学を読もう！

タイトル	著者	請求記号
鹿港からきた男	黄春明 [ほか]	923.7-コウ
ヴィクトリア倶楽部	施叔青	923.7-シ
荒人手記	朱天文	923.7-シユ
星雲組曲：因為即使是回憶、也需要生命的照耀。	張系国	923.7-チヨ
客家の女たち	鍾理和 [ほか]	923.7-チヨ
台北ストーリー	白先勇 ほか	923.7-ハイ
台北人	白先勇	923.7-ハク
孽子	白先勇	923.7-ハク
迷いの園	李昂	923.7-リ
自伝の小説	李昂	923.7-リ

↓英語多読用図書「ペンギンリーダーズ」シリーズ：自分のレベルに合わせて英語で読書してみよう！

タイトル	著者	請求記号
Michael Jordan	Nancy Taylor	837.7-Pe-1
Mother Teresa	D'Arcy Adrian-Vallance	837.7-Pe-1
Audrey Hepburen	Chris Rice	837.7-Pe-2
American life	Vicky Shipton	837.7-Pe-2
Romeo and Juliet	William Shakespeare	837.7-Pe-3
The Beatles	Paul Shipton	837.7-Pe-3
The lost world	Michael Crichton	837.7-Pe-4
The locked room and other horror stories	M. R. James	837.7-Pe-4



コラムdeレシー

第56回は、高橋勇吾が担当です。



今月のお題は「友情を描いた本」とのこと。迷わずこの作品に決めました。武者小路実篤の『友情』です。ひねりも何もないのですが、友情のひとつのあり方を描いた名作にして、すでに古典の域に達していると言っても過言ではない作品ですので、浦学の皆さんにもぜひ読んでもらいたいと思います、ここに紹介します（すでに読んだことのある人もいるかもしれませんが…）。

物語の主人公は、野島くんという青年。ある日写真で見た杉子さんに一目ぼれしてしまい、彼女のことが頭から離れません。直接逢ってますますその思いは募るばかり。そして、ことあるごとに親友の大宮くんへ報告、相談を欠かしません。いちいち報告される大宮くんも真摯に彼を励まし続け、時には場の空気を読んで絶好のシチュエーションを演出。「君の恋が実るならなんでもするよ！」と言わんばかりの好青年ぶりです。小難しい言葉で自分の思いを切々と吐露する野島くんと、「野島くんが言ってほしいであろうこと」をくみ取り、時に優しく、時に鋭い言葉で気持ちを後押しする親友大宮くん。そこに描かれるのは、まさに男同士の友情…。

友情という言葉の意味をどう捉えるか。相手に優しくすること、傷つけないようにすること、それだけが友情のあり方なのでしょうか。物語の結末には触れませんが、読み終わった後、きっとこの題名の意味を考えずにはいられないはず。そして、そこにはきっと人それぞれの解釈が生まれると思います。「爽快なラストだ！」と思う人がいれば、「なんてことだ（涙）！」と、打ちひしがれる人もいるかもしれません。

文庫に掲載されている略年譜によれば、この作品が新聞に掲載されたのは1919年。およそ百年前の作品になりますが、そこに描かれている人間模様はまったく古臭くない。「昔の小説って読みにくくて、難しそう」と思っている人にもぜひ読んでほしいです。私はこの作品を読むと、人間の抑えきれない欲望を目の当たりにしたことで悶々とした気持ちになり、「がんばれ野島！」と叫ばずにはいられません。ぜひ皆さんもこの作品を読んで悶々としましょう！

そんなわけで、次回は「人間の欲望うずまく一冊」です。